

専門図書館協議会 2022 年度全国研究集会概要（7月20日～21日）

時間	内 容
7月20日 (水) 第1分科会 【1-1】 13:30-14:30	基調講演：「ファミリーヒストリーを支える図書館でのリサーチ取材」 講 師：NHK 第2制作センターチーフ・プロデューサー 佐々木麗氏 NHK ドキュメンタリー番組「ファミリーヒストリー」の取材で全国各地の図書館や博物館、史料館等を活用しながら調査を行った経験を踏まえ、ユーザー側の視点から見た専門図書館のサービスや資料の魅力についてお話いただく。また他機関が持つ資料やレファレンス対応の事例を知り、専門図書館が提供してきた資料や情報を捉え直す機会とします。
第2分科会 【1-2】 14:40-15:40	テーマ：「札幌市図書・情報館における人に寄り添う選書と配架」 講 師：札幌市立中央図書館 利用サービス課長 浅野隆夫氏 課題解決型図書館のコンセプトと選書と配架の工夫により、漠然とした悩みを明確化した課題にし、専門家へと繋ぐ取組みをお話いただき、所蔵数や館内スペースが小規模な専門図書館で利用者に寄り添うサービスについて考えます。
第3分科会 【1-3】 15:50-17:20	テーマ：「“活用”を通して組織アーカイブズの価値を探る」 1. 総論 講 師：(公財) 渋沢栄一記念財団情報資源センター 松崎裕子氏、茂原暢氏 2. 事例発表 講 師： (1) (株) 資生堂 社会価値創造本部アート&ヘリテージ室 小泉智佐子氏 (2) 自由学園図書館・資料室 村上民氏 (3) 東京国立博物館学芸研究部 百五十年史編纂室室長 惠美千鶴子氏 機関・団体等の記録・資料(アーカイブズ)は、組織経営の透明性を確保するとともに、その価値を高める大切な資源となります。SDGs/ESG 時代における情報発信の一環としてアーカイブズを組織のブランディングに活かす実践例も増えています。歴史的な資料の蓄積と顕著な活動で注目される企業・学校・博物館を取り上げ、アーカイブズのデータベース化と WEB 発信、周年事業など「記録・資料の活用」を軸にお話いただきます。
【1-4】 17:45-18:45	オンラインサロン ※参加費無料 参加者を中心とした交流の場を設定しました。再度のご入場が必要になります。
時間	内 容
7月21日 (木) 第4分科会 【2-1】 13:30-14:30	テーマ：「専門図書館と著作権最新動向 2022」 講 師：弁護士(元・文化庁著作権課著作権調査官) 澤田将史氏 専門図書館をめぐる著作権法改正を中心とした最新動向について解説いただきます。 昨年5月改正、6月公布された「著作権法の一部を改正する法律」から2年以内に施行予定の各図書館等による図書館資料の公衆送信に関する措置についての概要と最新動向についてお話いただきます。
第5分科会 【2-2】 14:40-15:40	テーマ：「人がつながる情報がつながる図書館：役割再考」 講 師：(1) 九州経済調査協会 BIZCOLI 館長 岡本洋幸氏 (2) 富士吉田市役所(前富士吉田市立図書館) 小佐野みはる氏 コロナ禍が続く中で、場としての図書館をどのように運営していったらよいのか悩みは続いています。図書館は、館種に限らず、人がつながり情報がつながり発見アイデアが生まれる場として重要です。九州の「知の集積・交流・創造」拠点をコンセプトにした会員制ビジネスライブラリーBIZCOLI と「らしくない図書館」をめざす富士吉田市立図書館。その役割を再考しながら、そのための仕掛けづくりと図書館の利用促進を実現した取り組みについてお話いただきます。
第6分科会 【2-3】 15:50-17:20	テーマ：「オープンサイエンスとダイヤモンド OA — 学術情報の幅広い共有と利活用に向けて」 講 師：国立情報学研究所 情報社会相関研究系准教授 船守美穂氏 本分科会では、学術情報とオープンサイエンスを専門に研究されている国立情報学研究所の船守美穂先生にオープンサイエンスの時代の学術情報の幅広い共有と利活用の在り方についてレクチャーしていただきます。オープンサイエンスの時代に専門図書館が果たせる役割とは何か? について考えるきっかけをつくります。